



愛知県板金工業組合
発行 広報委員会
名古屋市中区北山町
3-8-6 〒466-0006
電話 052-732-1226

労災事故を無くそう

残念なことに愛知県板金工業組合において今年に入っても昨年から引き続き労働災害が多く、憂慮すべき事態となっております。当広報委員会の委員である猪飼さんも事故にあわれ、その苦しい闘病生活を次のように綴ってくれました。組合員の皆さんに安全の大切さを真に知っていただき、どんなときでも安全作業を心がけていただく為に、あえてこれを第一面に掲載します。

闘病日誌

猪飼 直樹

新年も明けた1月24日、よく晴れた午後悲劇は起こった。その日から新しい現場に入り、外壁の張替え工事にかかるうち、足場に上り作業を始めたときに、勢いあまってバランスを崩した後方

に落下。体勢を戻そうと無理な格好で地面(コンクリート)に右足だけを着地してしまい、右足首かかとを粉碎骨折してしまっただけで済んだ。一瞬の出来事で、自分でもんでもないことになってしまったと思った。

激痛をこらえ、左足一本で御施主に怪我をしたことを伝え、近所の町医者まで連れて行ってもらったがその日の午後は休診であつ

た。しかし、運良く在宅されていた医院長に急患処置でシップを貼ってもらい、痛み止めをもらって帰宅した。だが、その後も痛みは治まらず酷く腫れ上がってきた。結局、地元の接骨院に駆け込み紹介状を書いてもらい大きな整形外科病院に今から向かおうと連絡したのだが、こも水曜の午後は休みで、自宅に戻った。

次の日の朝まで痛みと不安で眠れなかった。

長い夜が明け、紹介状を持参し名古屋市西区の米田クリニックに向かった。ここは名古屋でも有数の整形外科院でほとんどの接骨院はこの専門学校卒の卒業生である。有名な病院だけあって広い待合室には順番待ちの患者でいっぱいである。受付を済ませしばらく待った後、若い研修医らしき方に問診を受け、その後、レントゲンを撮り、また待機である。

奥にはリハビリ室が有って多くのスタッフが患者のリハビリを行っており活気が感じられた。ようやく診察室に入るとレントゲンを見つめる医師に仕事の内容について尋ねられ、出てきた言葉は、「今の仕事からデスクワークに変われますか。」と言われ愕然とし

た。いまさら仕事を変わることでできない。

こうした怪我は、鷹職の人がよくするようで、ほとんどが職を変えていくそうだが、中には復帰できる方もいるそうなので、しっかりと治療に専念しようと思う。

ここから長い入院生活が始まった。

そのまま、入院となり少し離れて隣接している米田病院まで車椅子にて移動となった。4階の病室に案内され担当の看護師から入院生活について説明があった。ベッドに横たわりじっとしていると考

えることは今後の不安ばかりである。

ここでは体は健康体ではあるが、怪我で身動きが不自由な患者がほとんどなので、看護師のほかに身の回りの世話をしてもらえらる看護助手がいる。たとえば部屋の掃除から、シーツ交換は普通だが、食事の運搬から片付けもすべてしてもらえらる。その他お茶を毎食前に配ってもらえらるなどトイレや歯磨き、後に始まるリハビリ以外はベッドに居るだけで至れり尽くせりである。

次の日、個室に呼び出され今後



▶お世話になっている看護助手さん
(左から小野田さん、山内さん、古川さん)



▶米田医院長の回診
(術後の経過確認)

(1頁よりつづき)

の説明を聞く。医師の方々の検討の末、手術にて砕けた骨を寄せ集め、比較的大きな骨を横からポルトにて固定することになった。手術は週明けの29日(月)の午後12時決定。手術までの日々は、不安と怪我への後悔で時間のたつのが長く感じられた。

ここで労災保険の一人親方特別加入に入っていたことに気づき、県板事務所と連絡した。手続きの用紙を送ってもらい、まず、病院に提出する医療費免除の用紙を作成した。今回は、あわせて4枚の用紙を書かなくてはならない。最初に駆け込んだ現場近くの町医者で地元の接骨院、そして米田クリニックと米田病院宛である。記入方法など何度も事務局に電話して尋ねたが親切に対応してもらった。去年から、当組合での労働災害が相次ぎ、事務局も対応に苦労しているようだった。「まさか自分が」と、思われているかもしれないが、労災はいつ起こるかも知れないので、まだ労災保険に未加入の方は、自分によくては不可抗力という場合もあるので、必ず加入すべきだと思う。

各階の振り分けで火、木、土曜

が怪我の具合により洗髪、シャワー、風呂のいずれかに入ることができ、それ以外の日は蒸しタオルが配られるので清潔に過ごすことができた。

この病院内では毎週火曜の午前が院長の回診日、木曜の午前が私の手術を担当される女医の福山医師の回診日になっている。各病室を回り経過の確認が行われる。

手術前夜は眠れず、誰もが睡眠薬を服用するそうだ。もちろん自分もそうしたのである。

おかげで翌朝は目覚めがよかった。食事は無く点滴になり10時以降は水分も取れなくなった。衣服をT字帯と前掛けタイプの手術着に着替え右足のひざ上まで剃毛され、緊張気味の中ストレッチャーに乗り移り手術室に向かう。手術室入り口で病棟看護師から手術スタッフに替わり手術台に移る。

手術室独特な雰囲気の中、血圧計が取り付けられ少々上がり気味になる。手術は下半身のみの腰椎麻酔で横向きに足を抱えた状態で背骨と背骨の間に針をさして麻酔がかけられた。ひざ上まで消毒液が塗られ、しばらくすると下半身の感覚が全くなくなった。

手術を担当される福山医師が

入ってこられ緊張が高まる。耳元で血圧を見ている助手の方が頻繁に声をかけて緊張をほぐしてくれた。手術が始まり、足元でスタッフが動いているのは分かるが、自分の足が今どうなっているのかは理解できなかった。

手術も終盤になり寄せ集めた骨のポルト締めになり、下穴を開けるドリルの音が響き渡る。結局、1本の予定だったポルトは、2本埋め込まれ、傷口が縫い合わされて、3時間ほどの手術が無事終了した。

部屋に戻ると心配そうな妻が待っていた。まだ麻酔が効いているため自由に体が動かない。目の前にある自分の脚が動かせないのは不思議な光景であった。その後ギプスで固定され、徐々に動くようになると共に痛みが出てきた。その夜は痛みとの戦いであった。まず座薬を使用したのが全く効き目が無く、次は点滴から痛み止めを注入するがあまり効き目が無い。最後は筋肉注射になる。この時点で夜中の3時。大抵は、これで6時間ほど治まるそうだが、3時間ほどで切れてしまった。朝の6時には痛みが再び出て再度、点滴の痛み止めを注入してもらい、

多少痛みは和らいだ。昼前には足も動かせるようになり、手術時に取り付けられた尿管が取り外された。これがまた恥ずかしいやら気持ち悪いやらで、嫌であった。以前の尿管を無理に抜こうと引きちぎった患者がいたそうで大変なことになったそうだ。どういう原理か分からないが自分では抜けないようになってきているようだ。車椅子ではあるが、自分でトイレに行けたときは生き返った気分であった。



▶濱辺先生によるリハビリ風景

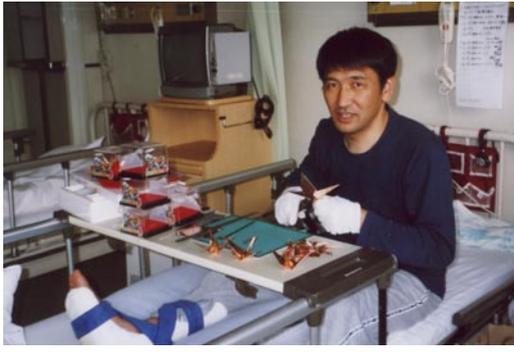
で移動する。その間も担当の濱辺先生が病室まで呼びにこられる。基本的にスタッフはエレベーターを使わず階段を使用しなければならぬ。毎回担当の患者のところまで知らせに来るので移動だけで大変である。

リハビリには5名の整備師がおり、各自患者を受け持ち、リハビリを進めていく。怪我の具合にあわせ無理のないよう親切にメニューを指示し行う。担当の濱辺先生は野球で培った知識から、若いスポーツで怪我をした患者を主に担当しておられた。明るい性格で若い患者も笑顔でトレーニングに励んでいた。自分の場合、傷口がふさがるまではあまり無理な運動ができないので午前か午後どちらかで1時間ほどの筋力トレーニングがしばらく続いた。

入院2週目ごろには病室が4階から5階に移動になる。ここは景色が良く、また病室も少ないので他の階に比べたら静かであった。毎日リハビリの1、2時間以外はベッドにて安静にしていなければいけないので、先日講習を受けた銅板の鶴・亀を作ってみようと思ひ、自宅から必要最小限の道具、

(2頁よりつづき)

柳刃、掴み大小、ケガキ針、定規などを持ち込み、材料は見舞いに来ていただいた間屋の(株)山善さんにお願いで0・15ミリ4寸角の銅板30枚を見舞いとして提供していただいた。この30枚もあつという間に作り終え、その後、銅板折鶴・亀の講師をされた(有)松代飯金さんなどに材料を提供してもらい、50個ほど製作できたのではないだろうか。100円ショップでケースを大量に購入し、赤いフェルトを敷き、ケースに入れて見舞いに來られた方や、病院内のスタッフに差し上げた。鶴・亀を作るより妻が



銅板で鶴・亀を折っています

ケースを探すのに苦労したようだ。鶴・亀ばかり作っても飽きてしまうので、造形用の粘土でゴジラも作ってみた。これがまた他の患者やスタッフに受けがよく、感心してもらった。2体作ってみたが、1人の看護師の方に「是非、仕上げで譲って下さい。」と言われ、1体差し上げることにした。自分を持つていても埃を被るだけだろうから、喜んでくれる人に差し上げた方がいだろう。病院内ではさすがに色を塗ることができないので退院後に手直しを加え、エアブラシにて着色し仕上げた。そうこうしているうちに仕事か



福山先生に
銅板の鶴・亀をプレゼント

ら離れ約1カ月半の入院生活が終わったのだが、これからの荷重かけのタイミングが大切であり、また苦勞するところだろう。

ここで手術後から今日(3月28日)までの日程をまとめてみる。

1月29日 手術後リハビリを開始。化膿止めの点滴が朝夕2

回、これが2月3日まで続く。

毎回針を挿すので腕には無数の跡ができた。看護師によつて点滴の時間が長く感じたり短く感じたり。

2月5日 手術後1週間でギプスを外しレントゲン撮影。傷口のガーゼ交換後、新しいギプスを巻く。

2月13日 ギプスを半分に前面をカットし、リハビリの時に外せるようになる。ここで抜糸。

2月19日 レントゲン撮影にて経過確認。

2月26日 歩行訓練開始。装具(かかと部分がカットされた靴)を使用し10〜15キロの荷重を右足にかける。

3月5日 体重の3分の1の荷重をかける

3月12日 C T撮影にて経過確認。2分の1荷重。ここで退院と

なる。

3月13日 ここからは地元の水谷接骨院にてリハビリを行い、

主要な時のみ米田クリニックまで

診察を受けに行く。ま

だこの時点では松葉杖が必要で、自宅に帰ってからの生活は病院内とは違い移動に苦勞した。

特に洋式トイレが別棟にあり、床の段差も大きく、出入りに苦勞した。また風呂に入る時もガーゼが取れず、足にサランラップをぐるぐる巻きにして、さらにタオルを巻きその上からビニールをかぶせてテープを巻き、シャワーを浴びた。風呂場のタイルが滑りやすく危うく転びそうにもなった。できることなら全荷重の松葉杖が取れるまでは入院させて欲しかった。

12日の段階ではまだ傷口がふさがっておらず、15日に米田クリニックにて再度、傷口



退院後、松葉杖で半荷重の歩行練習(術後7週)

確認。まだふさがらず19日の診察に持ち越し。

3月19日 米田にて退院1週間後の診察、この時点でガーゼが取れる。

この日から全荷重開始になるが、松葉杖なしでは、痛みが大きく1本だけ使用して歩行開始。

3月26日 レントゲン撮影。経過確認。ここで松葉杖がなくなり、かかと部分の装具を取り外す。かかとをつけての歩行訓練開始。今日に至る。



知多支部

平成18年度 通常総会

知多支部は3月21日(木)春分の日、阿久比町勤労福祉センター・エスパランス丸山にて平成18年度通常総会を開催した。組合員数77名中、出席者31名、委任状提出者13名であった。

沼澤恒一郎氏の司会により総会が始まり、竹内廣幸支部長が挨拶をされた後、議案審議に移り議長には松本富夫氏が選任され議事進行となった。平成18年度事業報告・会計報告・会計監査報告・平成19年度事業計画(案)・予算(案)が報告され、すべて承認された。今回

は役員改選があり、初山選考委員長より次の様に発表された。

新役員

支部長 神谷 聡
副支部長 神谷 恒男
理事 片山 雅博

沼澤恒一郎
松本 富夫
山内 政明
山下 政樹

以上7名の新役員が誕生した。今後の活躍を期待し、知多支部の発展に貢献されることを望むものである。



総会風景



優良献血者への表彰

一般報告では、具板の事業報告・献血活動報告・青年部活動報告があり、優良献血提供者2名の方々に感謝状が贈呈された。

10回提供 近藤 高明様
10回提供 蟹江日名子様

続いて、来賓の齋藤理事長より、ご挨拶を頂いた。世の中の景気が好調であるのに比べ、我々建築板金業界は材料の値上がりなどにより利益率が低下し、厳しい状況が続いている。仲間同士でのグループ化推進という様な創意工夫や、諸問題への積極的な対応によって

豊田支部

第51回 通常総会

豊田支部は去る3月24日(土)豊田産業文化センターに於いて平成18年度第51回通常総会を開催した。副支部長の松井繁氏が司会を担当した。会員41名中29名が出席、7名が委任状出席であった。

支部長の松井祐治氏の挨拶の後、来賓の紹介があり愛知県板 高柳副理事長・西三板金連合会 鳥居松男副会長・(職)豊田職業訓練協会 梅村会長・横山興業(株) 横山社長の4氏が紹介された。

続いて伊藤武氏を議長に選出し

生き残りを図っていかねければならないと強調された。その後、衆議院議員・伊藤忠彦氏、商社様代表としてクボタ松下電工(株)課長・和美健氏、問屋を代表してタカケン金属(株)専務取締役・川合一正氏の諸氏より貴重なお言葉を頂いた。今回からアルコールが一切出ない昼食及び懇親会であったが、組合員同志日頃の仕事内容・情報交換等の話で盛り上がり、なごやかに会は閉幕した。

岡戸(知多支部)

議案審議に入った。平成18年度事業報告、会計報告、会計監査報告が原案通りに可決承認された後、役員改選が議案上程され新支部長に福田益雄氏が選出された。副支部長には松井繁氏と杉本忍氏が再任され新たに伊藤勇氏が選任された。また、本会計に奥田憲氏、会計補佐に松井辰雄氏、書記に田中義久氏、副書記に河合澄夫氏、会計監査に樺山泰弘氏が選任された。新支部長に選ばれた福田益雄氏が新任の挨拶をされた後に平成

19年度事業計画及び予算案が可決承認され議事は終了した。次に具板技能士会事業、青年部・技能委員会・豊田高等職業訓練校講師・新班長さんの紹介等の各種報告があった。

報告の最後のところで西俣章元支部長・愛知県板常務理事より現役を引退するとの考えが述べられ長年の組合活動に対する組合員の協力に謝意を表された。

来賓の挨拶では、愛知県板高柳副理事長が始めに登壇し、最近の労災事故の多さについて述べられ、続いて西三板金連合会の鳥居松男副会長が西三の今後の行事予定について、(職)豊田職業訓練協会の梅村会長は、豊田高等職業訓練校の生徒の数について、最後に横山興業(株)の横山社長が現在の建築板金業界・自動車業界の景気について述べられた。

総会終了後、従来では会場を移して懇親会を開催していたが、飲酒運転追放の考えから、同じ会場で握りずし弁当を食べてお開きとなった。

豊田支部は昨年創立50周年の記念式典をこの産業文化センターで開催し、その内容を掲載した記念誌の製作を行ってきたが完成したので、この総会の席で出席者に手渡された。他の記念式典参加者には、郵送にて発送される。

松井(豊田支部)

安城支部

総会と安全講習会を開催

安城支部は3月18日(日)午後5時半より安城市日の出町にある「初寿司」にて支部総会を開催したが、それに先立ち3時半より同会場で安全講習会を開き9名が受講した。この講習の講師及び内容は4月14日(土)に西三板金連合会が開催予定の講習会と同じであるので、事前打合せのため当連合会会長の久世氏と副会長の高橋が特別に受講させていただいた。

講師は(株)近藤組・管理購買部副部長の和出重広氏が務められ、パソコンに繋がったスライドを使って説明をされた。氏はこちらが前もってお渡しした愛知県板の取り扱った事故例の資料を基に、わざわざ西三板ロック専用のスライドを作られていた。また、氏は建築板金について良くご存知であり、温かな語りかけで質疑にも答えられた。こうしたことから親しみを覚え、あまり堅苦しさを感じ無い講義であった。

約1時間半の講義の後、この講習会を企画した大参久男氏がリーダーとなって出席者全員による話

し合いをした。まず、それぞれの自分自身が体験した事故事例やヒヤリハットの事例を発表し、次にその対策について意見を述べ合った。様々な意見や提言が出されたので参考になる事も多かった。最後に和出氏に講評をしていただき講習会は終了した。

その後、引き続き席を移して総会が開かれ、久世会長は「こちらにも来賓として出席した。尚、総会において支部長酒井芳生氏、会計大参久男氏、技能士会担当者青年部長酒井克幸氏が、それぞれ再選された。

高橋(碧南支部)



江南支部

親睦旅行

江南支部は2月27日(火)・28日(水)に支部の親睦旅行を行いました。参加者12名で午前11時に大口町役場を出発し昼神温泉へと向かいました。途中、ふるさと一座で芝居見物をしました。昔懐かしの大道芸も有り、面白く全員が時のたつのも忘れ楽しみました。

その後、今夜の宿の「ひるがの森」に着き、疲れを温泉水で休めまし

6時から支部長の柘植氏の挨拶と乾杯の音頭で宴会が始まり、季節の食材を活かした山野草料理に舌鼓を打ち、また、お酒も入りこの時ばかりはと、心ゆくまで大いに盛り

▶ 天竜船下り



▶ 記念撮影



上がりました。最後は新支部長の石田領治氏による三三七拍子で締めくくられました。翌朝は全員が朝風呂に浸かってから朝食をとり、ゆつくりと11時にホテルを出発しました。途中、天竜船下りを体験し、暖房こたつさばきと、飛び散る

しぶきで歓声が上がります。35分の舟下りを楽しみました。次に馬籠宿へ寄り、ここでは街道の両側に軒を並べて風雪に耐えてきた古い家並みと、かつては馬方や牛方の宿として賑わったいわれや歴史を見て回りました。その後は帰路につき予定通りに帰宅できました。

石井(江南支部)

津島支部

ゴルフコンペ開催

3月27日(火)、双鈴ゴルフクラブ
関コース於いて、恒例のゴルフコ
ンペが開催された。

この日の参加者は総勢9名で、
今回も(株)カネブンの中島忠雄専務
に参加いただいた。

小春日和の中、気持ちよくプレ
イできたことでしょう。

そんな中、今回見事優勝を手
にしたのは、平野克彦さん、トータ
ル90、ハンデ110の80でした。

2位は僅差の81で河野幸徳さん、
3位はこれもまた81の鈴木昭冬さ
んでした。2位と3位は年齢差に
よるものです。



参加者

次回こそは、今回入賞できな
かった人がんばってもらいま
しょう。

猪飼(津島支部)

3月各支部の動き

- 名古屋板金連合会 9日 支部長会
- 名古屋板金連合会 9日 支部の役割分担他打合
- 東北支部 12日 定例会
- 中村支部 20日 定例会
- 中村支部 20日 役員改選、旅行について
- 昭和支部 9日 月例会
- 瑞穂支部 1日 定例会
- 瑞穂支部 1日 総会について、他
- 瑞穂支部 11日・12日 総会 (伊豆土肥温泉)
- 熱田・南支部 15日 定例会
- 中川・港支部 支部会合
- 尾張板金連合会 10日 理事会及び新年会
- 尾張板金連合会 8日 総会について、他
- 春日井支部 8日 定例会
- 津島支部 5日 定例会
- 津島支部 27日 ゴルフコンペ
- 江南支部 15日 定例会
- 江南支部 31日 総会

西三板金連合会 10日 三役会

安全講習会打合

岡崎支部 24日 新旧役員引継会

碧南支部 24日 青年部総会

豊田支部 3日 青年部総会

5日 第10回役員・班長会

13日 役員会・会計監査

24日 第51回通常総会

安城支部 11日 役員会

18日 総会・安全講習会

西尾支部 15日 役員会

知多支部 12日 青年部総会

21日 総会

東三支部 7日 相談役・班長・三役会議

25日 青年部総会

編集後記

私はテレビを見ながらほぼ毎晩
一人で晩酌をやっているが、2時間
ドラマだと途中で寝てしまう事が
多いので、最近は旅番組とか懐か
しの歌番組を見ることにしている。

オジンくさいが、酔いながら昔
の歌を聞いていると、その当時の
思い出や世相が連想ゲームの様
に次々と頭に浮かび上がってくる。

石川さゆりの「津軽海峡冬景
色」で思い出すのは、随分前の「愛
板」の記事で書いたことがあるが、
28年前の2月に青年部技能競技大
会出場のために上野発の夜行列車
で青森まで行った時のこと。上野
駅付近の街並みはゴチャゴチャし
ていると感じた。青森市内で道を
尋ねたおじさんに其の事を話した
ら、おじさん曰く「私はそんな
上野が好きだし、落ち着けるよ」。
1時間ほど後に又そのおじさんと
出会った。なんとその場所は青森
県板事務所、どうやら板金屋さ
んだっらしい。

その翌年の9月、もう一度青森
まで寝台車に乗った。訓練校の修
学旅行で付き添いとして参加した
時のことである。ここで思い出す
のは、訓練生と間違えられたこと。
私よりも二、三歳先輩の訓練生も
おり、又、彼らと「仲間」同様に
話をしていたので間違えられて当
たり前かもしれないが、それでも
うひとつ、青森に着く前に朝食で
出された鱒鱈がすごく美味かった
こと。どこかの港町の駅で積み込
んだのだろう。また食べてみたい
ともあれ、青森で出会った人は
皆親切であった。

二葉百合子の「岸壁の母」を聞
くと、幼き頃よくラジオから「本
日の舞鶴港に復員された方々のお
名前を申し上げます」と流れて
いたのを思い出す。その頃の私に
はそれが「引揚船」であることを

知るよしも無かった。
天童よしみの「珍鳥物語」は10
年ちよつと前の曲で南北離散家族
の心情を綴った詩だと思いが、こ
の歌詞の一部には私の願いと重な
るところがあり、胸が締め付けら
れる思いがする。この曲が新曲
だった頃、地元の実業家6組の夫
婦で会食をした後カラオケ屋に
入った。その時妻がこれを歌い、
初めてこの曲を知った。何の意図
も無くこれを選曲したのであるが、
私に訴えかけている様に聞こえた。
しかしそれは私勝手願望的な
解釈だったに違いない。

歌の話の最後は三波春夫の
「チャンキおけさ」。25年以上に
亘る私の十八番であるが、これに
は何もイワレや思いが有る訳では
ない。ただ席を盛り上げようと歌っ
て踊っているだけである。なんと
長持ちする曲であろう。宴席でカ
ラオケが始まると、私がリクエス
トしてないのに必ず誰かがこれ
をして入れてしまう。今日は歌う
まいと思っけていても、前奏が流れ
るとついマイクを握ってしまう。

近頃、これを歌った後対人的に
失敗が多いので、今後は気心の知
れた仲間内以外ではこの曲を「封
印」します。 高橋

三月二十九日(木) くもり
四百二十五号 編集会議
広報委員4名出席
午後二時半開会 五時閉会